

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3570200919		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	宇部西グループホーム		
所在地	山口県宇部市大字際波字東河田287番地の1		
自己評価作成日	平成27年6月19日	評価結果市町受理日	平成27年11月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年7月23日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

同一敷地内に病院、入所施設、同一施設内に診療所、在宅介護事業がある複合型施設の中の施設である。他部署とも連携を取り、医師や看護師、理学療法士や作業療法士などから評価やアドバイスを受け、入居者一人ひとりの状態に応じた対応を検討し、サービスの提供をするよう努めている。医療や介護面でのアプローチを必要としている入居者が増え、3食とも病院系列の給食へと変更し、入居者の状態に応じた食事を提供している。変化がある場合は、その都度、主治医や管理栄養士に相談し、栄養及び水分が摂取できるように支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

介護計画作成には、利用者がより良く暮らせるための課題の発見や適切なケア方法が提供できるようにチームで取り組んでおられます。訪問看護師や理学療法士、作業療法士等からのアドバイスや定期的な評価を受けて、利用者ひとり一人の状況に応じたきめ細かなサービスが提供されています。管理者は、日頃から職員の意見や提案を十分に聞く機会を多くつくられ、直接意見を聞くだけでなく、業務や介護サービスの課題があればその都度、アンケートを実施され、職員誰もが意見が言えるように工夫しておられます。出された意見をもとに職員間で話し合い、業務の改善に取り組まれています。職員からの提案をもとに服薬管理マニュアルの作成や入浴支援に係る体制の改善、記録様式の変更、緊急対応マニュアルの見直しなど職員の意見や提案がサービスの質の向上に活かされています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人組織の基本理念にのっとった事業所理念を掲げ、ステーション内及び各ユニットに掲示している。理念の必要性や意味を伝え、職員全員が同じ方向に向かって行くよう取り組み、個々の思いに添い、安全で楽しく過ごせるよう実践に繋げている。	地域密着サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。理念を基に管理目標や自己目標を作成し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中の施設であることを常に考えている。地元自治会に加入しており、お祭りや行事には声を掛けて頂き交流を図っている。新規入居の選定に当たっては地元の方を優先している。	自治会に加入し、職員は廃品回収や地域の秋祭り神事で神輿を担ぐなどの協力をしている。利用者は地域の敬老会や秋祭り、毎月開催の「ふれあいいきいきサロン」に参加して交流している。法人主催の秋祭りには地域から多くの人の参加がある他、ボランティア(歌、日本舞踊、サックス演奏、アロママサージ)で来訪の人と交流している。高校生の福祉体験学習を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同一敷地内の施設と共同でイベントを開催し、その中で認知症に対するイベントも行っている。定期的な活動、地域学習会を開催し地域と共に学んでいく姿勢を持っている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、外部評価の指摘事項については改善できるよう取り組んでいる。日々の業務の見直しの機会と考え、自己評価は職員の意見も参考にしている。	管理者とチーフは評価の意義について職員に説明し、常勤職員に自己評価するための書類を配布して記入してもらい、まとめている。自己評価を日々の業務の見直しと捉えている。利用者個々の状況に添った介護計画になっているかを改めて検討し、全職員による介護計画作成の必要性や外部評価の課題についても目標達成計画を立てて検討を始めるなど、改善に向けて取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、市職員、民生委員、入居者、家族、職員が参加しサービスの実際、評価への取り組み、話し合いを行いサービスの向上に努めている。	会議は2か月に1回開催し、利用者の状況や活動状況、事業所のサービス内容、外部評価への取り組み状況を報告し、地区の災害時の避難拠点についてや市の災害対策の情報、配食による効果などについて話し合いをしている。介護相談員から、身体の健康と同時に心の健康にも留意してほしいとの意見がありサービス向上に努めている。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点など、相談を行い市との連携は良好。運営推進会議にも参加してもらっている。サービスの取り組み等を伝え、意見交換、相談など協力関係を築くよう努めている。	市担当者とは運営推進会議時の他、電話や直接出向いて運営についての相談や情報交換を行い、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設で開催する研修会に参加し知識を深めている。マニュアルなどの資料は、いつでも回覧できるようにし、指針にそって身体拘束しないことを職員は理解している。可能な限り施錠は行わないが、時間帯により玄関の施錠を行っている。	毎月実施している法人のリスクマネジメント委員会の情報や併設施設の研修会で学び、職員は身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には施錠をしないで外出傾向のある利用者には、見守りを工夫し、一緒に出かけるなどして拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては管理者やチーフが指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設で開催する研修会に参加している。研修会に参加できなかった職員には、伝達し研修資料をいつでも回覧できるようにしている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援や成年後見制度について、必要であれば相談できる体制をとり、活用に結びつけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結や変更がある場合等には、必ず家族に説明し、不安や疑問の解消に努め、理解や了承を頂くように努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談や苦情を受ける窓口、外部機関、第三者委員など、説明している。電話や面会時などにも意見を聞き、検討、職員で共有するようにしている。	苦情相談窓口や受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族からは運営推進会議参加時や面会時、行事参加時、介護計画作成時に聞いている他、電話でも聞いている。遠方から来訪する家族が宿泊できる施設を整備し、数日間過ごす中で要望や意見が言えるように工夫している。家族からは、利用者の状態の変化に伴う相談や楽しく過ごしてほしいなど利用者の暮らしに関する内容が多く、それらは介護計画に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、グループホーム会議を開催し職員の意見や提案を聞く機会を設けている。必要時にはアンケートを行い、検討し反映できるようにしている。	管理者は月1回のグループホーム会議で職員の意見や提案を聞く機会を設けている他、日頃からいつでも職員が意見や気づきがいやすいよう配慮している。業務改善や介護サービス向上についての課題はその都度、アンケート(年3回)を実施して意見を聞き、話し合いをしている。安全で確実な服薬のためのマニュアル作成や安全な入浴支援のための介護者と時間帯、寄り添う時間を増やす方策など、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修に可能な限り参加できるように努めており、偏りなく全ての職員が参加できるように配慮している。	外部研修は、職員に情報を伝え、本人の希望や段階に応じて受講の機会を提供している。受講後は伝達講習の機会を設け、受講内容はいつでも閲覧できるようにして全職員で共有している。法人(同一敷地内にある病院、福祉施設、在宅ケア施設等)で毎月1回実施している研修(医療安全とコミュニケーションや認知症、身体拘束等)に参加している。法人研修に参加した職員やリスクマネジメント委員会、感染対策委員会、労働安全委員会に出席した職員が朝礼時に伝達研修を行い、スキルアップに努めている。新人職員は法人研修が終了後、管理者や計画作成担当者が指導者となり、日々の業務の中で介護の知識や技術を働きながら学べるように支援している。	・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。外部研修等で交流する機会を持ち、他施設との違いを感じてもらい、サービスの質の向上に取り組むよう働きかけている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と話す機会を持ち、話を傾聴、共感に努め、不安や要望を見出しプランに反映できるよう努めている。家族からも情報を得るように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時前より家族と十分にはなす機会を持つようにし、不安なこと、求めていることなどを把握し、よい関係が作れるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、担当ケアマネジャーがいる場合は一緒に検討している。必要な支援がグループホームであるかを見極めるようにし、他の支援も含め情報を提供しより良いサービスが受けられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共同生活であることを理解し、自事業所の今後を見据えたうえで、現段階で入居者の状態に合わせた対応を一緒に行っている。入居者同士もよい関係が保てるよう支援している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も重要な介護者であり、家族の生活面や状況に合わせ負担にならないよう努めている。必要に応じ相談や連絡をし、一緒に入居者を支援するようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	神社への初詣や近所の公園など、外出する支援を行っている。知人の面会があった場合、ゆっくりと話ができる環境作りを行っている。	家族や親戚の人、近所の人の来訪がある他、馴染みの公園への外出や電話や手紙での交流を支援している。家族の協力を得て、盆の一時帰省や墓参、外出、買物、外食など、馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が気軽に話せるよう配慮しソファーなど、環境を作っている。関わりの中で思いや希望を聞くようにしており、職員が間に入ることにより関係を良好に保つよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居の継続やサービス提供が困難になった場合、家族と共に今後を考え情報の提供を行っている。サービス終了後も様子を伺ったりと連絡を取っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から傾聴する時間を持つようにし、日常生活の関わりの中からも不安、希望や意向などを把握するように努めている。	入居時のフェイスシートやアセスメント表を活用して、生活歴や暮らし方の希望、思いの把握に努めている。日常の関わりの中での本人の生活状況や言葉、表情、状態などをケース記録に記録して思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前より家族からの情報をもらい、フェイスシートを作成している。今までの環境に近い状態で生活できるように、職員全員で把握し支援するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の能力に応じた対応をするよう、職員間で情報を共有するよう努めている。申し送りでは、前日からの状態説明や特変時の説明など、詳細に伝えるよう働きかけている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主担当者が他の職員より情報を収集し、毎月プランの評価や考察を行っている。家族からも状況説明を行った上で希望を聞きいている。他の事業所とも連携して、介護計画を作成している。	利用者を担当する職員と計画作成担当者が中心になって月1回カンファレンスを行い、本人の意向や思い、家族の意向、かかりつけ医、看護師、作業療法士等関係者の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。毎月1回、リハビリ担当者や利用者毎の検討会を実施し、半年毎に評価をするシステムをつくっている。月1回モニタリングを行い、6か月毎に見直している他、利用者の状態に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや個別処遇表などを用いて、職員間で情報の共有に努めている。必要時には検討する内容を決め職員間で検討し、今後についてを提示、実施し評価をするよう働きかけている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状態に合わせ、家族の要望を聞き柔軟な支援を行うよう取り組んでいる。一人ひとりに必要なサービスが提供できるような体制作りに取り組んでいる。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりが違った環境で生活してきたことを理解し、地域の資源を活用できるよう取り組んでいく。安全で豊かな暮らしを送る為にも、地域のボランティアを受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には併設の宇部西クリニックが対応している。(内科のみ)他科の受診は入居者、家族の希望する医療機関を受診できるよう連携を取りながら支援している。	本人、家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医としている。事業所では月1回の定期受診や訪問歯科診療時に支援している。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診結果は家族と共有している。定期的に訪問看護があり、利用者の健康管理や職員が相談して助言を得るなど、適切な受診ができるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に訪問看護が来所し、その都度相談しアドバイスをもらい対応している。緊急時、併設クリニック、訪問看護と連携を図っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	併設クリニック内に地域連携室を設置し、必要時には医療機関と情報交換や相談をし、早い段階で治療、入退所できるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設クリニックと相談し、家族の意向、事業所の役割を相談しながら支援していく。	契約時に、事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合は、看取りの指針に基づいて再度説明し、家族の意向をふまえた上で、かかりつけ医と相談し、移設も含めて方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	月1回、施設内でのリスクマネジメント会議にて報告、事例検討を行い、ヒヤリハットの啓発に努めている。各種事故の対応については、マニュアルを作成しいつでも回覧できるようにしている。	インシデント、アクシデント報告書に、その場にいる職員で状況や対応、予防策について話し合い記録している。2名のリスクマネージャーの助言を記録した後、全職員に回覧し、内容によっては月1回のグループホーム会議で再度話し合い、一人ひとりの事故防止に努めている。法人研修で救急救命法を学び、体調不良時や急変時の対応マニュアルの作成に取り組んでいる。全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとはいえない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、避難訓練は、昼間及び夜間を想定して実施している。運営推進会議や地域学習会などで災害時の避難拠点としての役割、協力について検討し地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。	消防署の協力を得て年2回、昼夜の火災を想定した同一敷地内にある法人施設合同の訓練の他、同一建物内でも年2回、避難訓練、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使い方を職員と利用者が参加して実施している。同一敷地内の法人施設とは夜間体制の整備を含めて協力体制ができています。法人では地元自治会や消防署と協議し、災害時の拠点施設の役割を担うなど地域との協力体制を築くよう取り組んでいる。併設施設全体が災害時の地域の避難場所となっており、市の委託を受けて、地域で健康教室を開催している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりに合った言葉掛けや対応をするよう職員全員が気を付けている。気さくな声かけをすることもありますが、プライバシーや人格は十分尊重するよう努めている。	法人理念にある「ひとり一人の尊厳と個性を大切に」を職員は理解しており、利用者を人生の先輩として尊敬の念を持って、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者やチーフが注意、指導をしている。個人記録の保管に留意し、守秘義務は遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	否定しないことを念頭に置き、関わりの中から思いや希望を聞くようにしている。動きや表情などのサインを職員で共有し自己決定できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペース、希望に添って自由に生活してもらえるように努めているが、業務を優先してしまうこともある。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容院を利用し毛染めやカットを行っている。化粧品の購入等も家族と相談しながら支援している。自分で出来る方には自由に着替えを行ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設病院の給食となり現在は食事の準備や片付けは行っていない。入居者の状態に応じた食事形態を準備している。おやつ作りにて、季節に応じたお菓子を一緒に作り、達成感や美味しく食べることへの働きかけを行っている。	食事は、法人の管理栄養士が立てた献立でつくった併設病院の厨房からの配食を利用している。事業所の菜園で収穫した旬の野菜や果物で1品増やしている他、利用者の状態に合わせた食事形態や好みなどを厨房に知らせ、形態や食品交換を行い、利用者個々に合った食事を提供している。ベランダに食卓を出して戸外で食べたり、月1回のおやつづくりでは季節感を大切にしておやつ(蒸かし芋、スイートポテト、ホットケーキ、ぜんざい、おはぎ)を利用者と一緒につくっている他、家族との外食など食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立にて栄養バランスは取れており、一人ひとりの状態に沿った形態や量が提供できている。食事量、水分量など観察し必要時には主治医や栄養士に相談しアドバイスをもらい対応している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個別に口腔ケアを実施している。自分で難しい方には職員が介助し行っている。夜間には義歯の消毒を行っている。必要な方には、訪問歯科の利用を勧めている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、入居者に合わせて定期的なトイレ誘導を行い、さりげない声掛けや入居者のサインを職員が共有し、トイレで排泄出来るよう支援している。	生活健康記録を活用して一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者に応じた言葉かけや対応を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状況を把握し、水分や野菜ジュース、オリゴ糖などを利用し工夫している。食後にトイレに誘導し習慣になるよう、一人ひとりに応じた予防に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望があればいつでも入浴できる体制作りを行っている。入居者の希望やタイミングに合わせて、その人のペースでゆっくり入浴出来るよう配慮している。本人の状況によりシャワー浴や清拭を実施することもある。	入浴は、9時30分から11時30分の間と14時から15時までの間可能で、希望すれば毎日入浴できる。入浴時間や順番、湯加減など利用者の好みに合わせて、昔話や歌を歌うなど、くつろいだ入浴になるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、言葉かけや入浴時間、介助者をかえるなどの工夫をしている。利用者の状態によってはシャワー浴や清拭、足浴など、個々に応じた入浴支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活パターンを作るよう、一日を通して休息又は活動等、個々に合わせて支援している。入床時間は個々により異なる。こまめに布団干しやシーツ交換など行い、気持ちよく眠れる環境作りに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成し、薬の作用や副作用、用法や用量など、いつでも確認できるようにしている。内服薬変更時には連絡ノート等で伝達し、様子観察を行っている。状態変化時は、主治医へ相談し支援している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の状態に応じて、声かけを行い可能な限り役割を持ってもらえるように支援している。菜園や花壇の草抜き、洗濯物干しや洗濯物たたみなど、一緒に行っている。	居室の雑巾がけや花瓶の水換え、花を活ける、布団を干す、洗濯物干し、洗濯物たたみ、ゴミを出す、テーブル拭き、縫い物、編物、花植え、草取り、野菜、果物の収穫、新聞、雑誌を読む、広告を見る、テレビ、DVD視聴、CDを聞く、歌を歌う、体操、積木、かるた、スケッチ、折り紙、貼り絵、ボール投げ、散歩、職員の子ども(乳児)との触れ合いなど、利用者の喜びや張り合いとなるように楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や日曜日などを利用して、少人数での散歩や外出をしている。家族に協力や出来る限りの希望を聞き、外出を楽しめるよう支援している。	ベランダでの外気浴や周辺の散歩、季節の花見(桜、芝桜)、初詣に出かけている他、家族の協力を得て、自宅への帰宅や墓参、買物、外食など、利用者の希望に添って外出できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどが施設で管理している。希望時(個々の能力による)には、一緒に買い物に行きお金を支払うなど、いつでもお金を使えるようにしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、いつでも対応するよう支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下など、季節の応じた壁画を作成し飾っている。不快や混乱を招くようなものに配慮し、ベランダには花や野菜を植え季節感を取り入れ、外気を感じられるよう努めている。	リビングは明るく、広々としており、大きなテーブルや椅子、ソファがゆったりと配置してある。ベランダにつながる菜園は季節の野菜や果物が植えてあり、草取りや成育、収穫などを日々楽しめるように工夫している。リビングに接した和室にはレクリエーションの材料をいつでも自由に取り出せるように準備している。壁面には、利用者の手づくり作品や季節の飾り物を飾っている。温度や湿度、換気に配慮し、明るさや音も適切に調整して、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間にはソファを配置し、皆さんで話ができたり思い思いに過ごせる空間作りを行っている。ベランダでは日光浴が出来る。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や道具、日用品などを持ち込んでもらい、本人が安心して生活出来るような環境作りを支援している。家族の写真やメッセージを貼ったりと、工夫している。	居室は畳の部屋とフローリングの部屋があり、利用者の好みに合わせてコーディネートしている。テレビ、箆笥、衣装ケース、机、椅子、籐家具、仏壇、鏡、櫛、飾り棚、コルクボードなど本人が使い慣れたものや好みの物を持ち込み、小物飾りや表彰状、壁掛け、家族写真を飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には名前を、トイレは分かりやすく表示し、自立して移動や排泄が出来るよう、能力に合わせて支援している。要所には手すりを設置し、安全面の配慮も行っている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 宇部西 グループホーム

作成日: 平成 27年 11月 23日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の為の取り組みとして、会議等での話し合いや対応マニュアルを作成しているが、一人ひとりの状態に応じた防止策に徹底やスタッフが応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	危険予知に対する知識や能力を身につける。転倒や事故を減らすよう、情報の共有、マニュアルの見直しを行う。応急手当や初期対応を理解し実践力を身につける。	ひいえりハット報告書を記入することで事故に対する認識を深める。情報共有するとともに再発防止策を理解し対応するように努める。研修会や勉強会に参加し、実践力を身につける為、訓練を計画、実施する。	1年
2	5	グループホームの状況や活動内容、取り組んでいることなどを報告、意見交換を行っているが、サービスの向上や新たな取り組みまでには至っていない。	運営推進会議を活かし、サービスの内容や質の向上に繋げていく。	運営推進会議の参加者増員(グループホームスタッフ、地域に関わる人々など)へ向けて働きかけていく。会議の内容や進め方(意見交換しやすいような等)を工夫する。	1年
3	4	外部評価の意義を理解できていない為、評価を活かして具体的な改善及びサービスの提供まで繋がっていない	外部評価の意義を理解しサービスの質の向上に努める。改善すべき点はより良いものになるよう検討し変更していく。	外部評価の意義及び評価内容を利かし、スタッフの意見を取り入れながら、全体(非常勤含め)で検討し改善に向けて取り組んでいく。	1年
4	14	外部の研修や法人内での研修へは可能な限り偏りなく参加できるように取り組んでいるが、その後、資料等での閲覧程度で内部での話し合いや勉強会を計画、実施するまでには至っていない。	外部の研修だけでなく、グループホーム内部での勉強会を計画し実施していく。スタッフのスキルアップを目指す。	事故や安全関係、身体拘束に関するだけでなく、疾患や薬の理解や対応方法など、改善等も含め計画し実施できるように取り組んでいく。	1年
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。